

成願寺

報 季

115

平成 29 年 12 月 18 日
(2017 年)

目 次

「生と死」を見守る布施弁天……………	1
秋の観音詣りの感想文・報告……………	5
台湾の剣道場より坐禅修行に來山②……………	8
山内短信……………	12

発行 多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町 2-26-6
電話 03-3372-2711
制作 地人館

平成二十九年春の観音詣り説教

「生と死」を見守る布施弁天

真言宗紅龍山布施弁天東海寺住職 下村法之

水運の歴史に思いを馳せつつ利根川の地図を眺めて布施弁天を知り、早速足を向けたのが五十年前の寒い日。今回の団体参拝はお話もありがたく、夢再来の感慨です。小住 貢人

みなさま、本日はようこそお詣りくださいました。

当山の朱塗りの本堂には弁財天女様がお祀りされています。いまこちらの観音堂にお入りいただいたわ



真言宗紅龍山布施弁天東海寺住職
下村法之上人

除夜の鐘・新年祈禱会（百七組予約受付・一撞き千巴）

大晦日夜十一時半來会者一同で読経―撞き出し

平成三十年元旦零時半新年祈禱―祝賀祝杯

*除夜の鐘の前にお焚き上げをします。本年中の護符などをお持ちください。*乾杯の干支杯はお持ち帰りください。

*干支にちなんだ絵馬をおわけします。絵馬に描かれる干支の絵は滋賀県東門寺住職藤木道明老師によるものです。

大般若祈禱会のお知らせ

平成三十年一月七日（日）、午後二時より大般若祈禱会を開き、家内安全・身体健全・商売繁盛等を祈念します。どなたでも（檀家以外の方も）祈禱を受け付けます。願文を添えてお申し込みください。

年始めの会（初観音）のお知らせ

平成三十年一月十八日（木）午後二時より、新年初の観音様の縁日大祭（祈禱会）を行ないます。願文を添えてお申し込みください。ご祈禱後はお汁粉で懇親会です。 会費一五〇〇円

けですが、こちらの正面には聖観音様。みなさま観音奉賛会ということですので、やはりご縁の深い観音様のお堂に特別にご案内させていただきました。

神と仏の祀られる地

もともとは当山の本尊様であります弁財天女様だけをお祀りしておりました。この弁財天女様、もとは兵庫県の方にいらしたわけですが、非常に気性の荒い性質をお持ちで、彼の地より新天地を求め、紅の龍にお乗りになってこの布施までやってこられた。それが大同二年（八〇七年）七月七日のことであつたと記録されておりますので、ざっと千二百余年も前のことでございます。

大雷雨とともに現れた紅の龍神様は一夜にして高い丘を造り上げた。そうしましたら、近隣の村人の夢枕に弁財天女様がお立ちになって、「我は、但馬の国朝来郡筒江の郷（現兵庫県朝来郡和田山町）から参つた、我を探し祀りなさい」とお告げになられた。そして村人がお告げにしたがい小高い丘から差す光に導かれますと、そこに三寸（約九cm）ほどの尊い御像があり、村人は驚きとともに藁葺きの小祠を建ててお祀りした。これが当山の始まりでございます。

では、こちらの観音様はいつからお祀りされているのかと申しますと、千七百年代にやはり引つ越して来られました。当時は、神社もお寺も分け隔てがございませんでした。神職さんもお坊さんもいて、一緒に神様、仏様を敬いお祀りしていたわけです。みなさまのお宅でも神棚と仏壇があつて、こつちが偉いんだとか、やりませんでしょう。それが当たり前のことであつたわけですが、現在はおめでたいことは神社、おめでたくないことはお寺というようなことになつてきているようでございます。

千七百年代も、こちらから少し離れたところにございました東海寺の住職が弁財天女様をお守りしておられました。出張していらしていたわけです。そうしましたら、こちらに来ていたその時に東海寺が火事に遭い灰燼に帰してしまつた。これを契機に、村人たちの願いもあつて、東海寺が引つ越して来まして、結果、「紅龍山布施弁天東海寺」という長い名前のお寺になつた。古い地図を見てみますと、もとは「弁財宮」、お宮であつたということでございます。みなさま、先ほどお気づきになられたかと思いますが、当山には鳥居がございます。まさに神仏混合の聖地ということで、日本古来の独特の信仰を

お守りしているわけでございます。

みなさま方、弁天様とお聞きになられますと、宝船にお乗りになった七福神の中の紅一点と思われる。弁天様、腕が何本あるかお分かりになりますか。腕は二本で琵琶をお持ちになっているお姿が多いかと思えます。ところが当山の布施の弁財天女様は腕を八本お持ちになっておられます。その性分は戦神。非常に荒々しい女神様なのでございます。仏教の「天部」の神様方、たとえば大黒天様、毘沙門天様、帝釈天様などをお詣りする時は適当に拝んではいけません。ではどうお詣りしたらよろしいかと申しますと「無事にお詣りさせていただきました。ありがとうございます。ありがとうございました」。これで結構かと思えます。

実はね、こういう方が多い。「ねえ、あっちの神社は厄除けにいいってよ」。もしくは「こっちの仏様は長生きに効くってよ」。ある方の車を見ますと、いろいろな社寺仏閣の交通安全のシールを貼って「これでご利益が何倍だ」なんて言うっておられる。でもこれでは、「願い変わって欲となる」。清らかであったはずの願いが、「あそこの神様がいいんじゃないの、こっちの仏様も拝んでおこう」。こうしていつの間にか「欲」に変わった願いに神仏は手を伸ばしてはく

ださらないのです。みなさんの御心は一つです。みなさんの御心が定まりますと、神仏と心でつながることができるようです。

そこにあつた命を称える

先ほど申しました朱塗りの本堂は、東海寺が移転したのち、享保二年（一七一七年）に完成しました。ちょうど三百年の時を経ているわけですが、当時の工法で釘を一本も使っておりません。木を組んだお堂ですので、東日本大震災の時は揺れに揺れました。私もこれはこのまま倒れてしまふかなと思いましたが、だんだんと揺れが収まり、建物は無事でございました。

その一週間後、ある女性がお詣りに見えました。ご祈禱の申し込みをされて、願文を書かれた。私のご祈禱で読み上げる前に「南三陸町」と男性の名前が書かれているのを目にしまして、これは毎日聞く地名、どうされましたかとお尋ねしました。そうしましたら、「実は私の兄の名前なんです。南三陸町で消防署に勤めておりました」。嫁ぎ先がこのすぐ近くで、ご実家が南三陸町ということでございます。みなさまご存知のように震災の時に「逃げる！」と

声を上げられた消防士さん、警察官さん、役場の方やそういう町の重要なお役の方たちが一番最初に津波にのまれてしまいました。その女性の方、「住職さん、わかっていますよ。一週間も経ちましたから亡くなっているということはなんとなくわかる。でもできるならその姿を見て、兄によくやったと声をかけてあげたいのです」。

私もご祈禱を何千件とさせていたできてきました。が、こんなに悲しいご祈禱は初めてでございます。一生懸命弁財天女様にお願いをしました。布施の弁天様は、清らかな心でひたすらに念願すれば、これに感応してくださる。そういった誓願を立てていらっしやるのです。女性の方はずっと泣きながら手を合わせておられました。それから数日後のこと、下から走ってみえて「住職さん、見つかったよ」と……もちろん亡くなっておいででした。瓦礫の下で。でも、これで「ありがとうございます」と言えると泣いていらっしやりました。

昨今、お葬式はいらぬのでは、とかお墓って必要なの、なんて言う方もいるたいへん悲しい時代になりました。お寺は、お寺のためにお葬式をしているわけではございません。亡くなった方の生き様を

私たちが称えるのです。そこにあつた命を紡いでいくのです。ですからお葬式はとても大切なのです。

経験という名の「福德財宝」

もともとお宮であつた当山には、晴れ着姿で赤ちゃんを抱いてお宮参りをする人々。またこの観音様の前では喪服に身を包んで三回忌をつとめる人々。境内に出れば一緒におられる。これが私たちの生きる世だなどと思います。お宮の時代が長くございましたし、現在も鳥居をくぐつての参拝ですので、二礼二拍手をもってお詣りされる方がいらっしやる。今は真言宗豊山派の寺院でございますので、手を合わせてお詣りする方もいらっしやりますが、私どもはみなさま方の御心が安らかになるお詣りをしていただければと思っております。

成願寺様と宗派は違いますけれども、仏様のみ教えを守るところは同じでございます。私ども真言宗には「阿字の子が阿字の古里立ち出でて、また立ち帰る阿字の古里」というご詠歌がございます。これは、阿字が表す大日如来、その子どもが大日如来の古里からきて、また大日如来の古里に帰るということでございます。

最後になります。が、弁財天女様と申しますと、やはり思い浮かべるのは福徳財宝の神様ということがあろうかと思えます。みなさんもお金はあつた方がいいですかね。無くてもいいですか。私たち人間は仏様の元に帰るとき、何も持つてはいけません。何か持つて逝けるとすれば、この世での経験。

誰かに優しくしましたか。それとも怒りましたか。愛しましたか。愛されましたか。この世のみなさんの行ないしか持つて逝けないのです。そんなこと言つたつて人間界ではお金が必要だよ、とおっしゃるかもしれません。それはそうです。ですので、私からのアドバイスとして申しますと、お金を使う時は気持ちよく出す。そうしますと気持ちよくお金が戻つてまいります。いやいや出すお金は戻ってきません。お金に気持ちはありません。そこにあるのはみなさんの思いだけです。みなさんのお気持ち次第で大きく変わってくるのかなと思つ次第でございます。

私どもで申しますといずれ大日如来の古里に帰ります。ですので安心してお過ごしただければ、きつとあの世に持つていける経験という名の「福徳財宝」を得られるのではないかと思つわけでございます。本日のご参拝、誠にありがとうございます。合掌

秋の観音詣り感想文紹介

檀信徒 北田武夫

平成二十九年十一月八、九日、成願寺観音奉賛会に参加させていただきました。今回の参加者は二十四名と少人数でしたが、予定通り集合・出発ができて、二日間充実したお詣り日和でした。

最初に、臨濟宗大本山方広寺を拝観。まずは昼食で、浜名湖の近くの鰻重を期待しましたが、鰻重もどきの精進料理。でもとてもおいしかったです。

食事の後、写仏体験があり喜んで参加しました。完成したのを見て、我ながら中々上手に書けているな？ それもそのはず。下絵があつて、その上をなぞつただけでした。

半僧坊、総本殿、本堂と拝観。本堂中央には立派な釈迦牟尼仏様、右に文殊菩薩様、左には普賢菩薩様を従えておられました。観心二年の作とのこと、荘厳な仏様でした。

午後は方広寺様から三十分位離れたところにある、神秘の大鍾乳洞「竜ヶ岩洞」へ。二億五千年前にできたといわれる東海地方最大規模の鍾乳洞で、長さ千メートルの内、四百メートルが一般公開されています。珍しい鍾乳石が連続して見ることができ、驚

きとともに大感動でした。

夕刻にバスは浜名湖かんざんじ温泉「ホテル九重」に到着。美味しい夕食会のあとには、有志で二次会へ。楽しい時を過ごしてから夢の世界へ。

翌朝、館山寺へ拝観、朝食後ホテル出発。目指すは女城主の舞台へ。臨済宗龍潭寺で小堀遠州作の見事な禅宗庭園を見学し、嵩山少林寺へ。坐禅会でおなじみの井上貫道老師にお話を伺いました。

焼津さかなセンターで昼食、予定には入っていませんでしたが、せっかく焼津に来ているので、大覚寺全珠院「焼津千手大観音」様をお詣りすることに急遽決定。一丈八尺で全金箔の観世音菩薩様は、お見事でした。私にとつては三度目のお詣りとなりました。

バスは帰路へ。道路も順調で十七時半成願寺に到着。ご祈禱後、解散。ありがとうございました。

檀信徒 西本明代

平成十四年から春と秋の年二回、「観音詣り」に我が家では、親子で参加しております。毎回、どこに行くのかと楽しみにしています。

知る人ぞ知るようなお寺の参拝ができ、一般に公

開されていない建物、お庭、寺宝を見せて頂けることが多々あり、歴史の一旦に触れることもできます。行く先々で丁寧なご説明や楽しい法話も伺え、有意義な時間を過ごすことができます。成願寺さんに行くからこそ、得られるものだと思っております。

「春と秋の観音詣り」は、我が家の年中行事です。来年も、親子で参加しますので、宜しくお願いいたします。

秋の観音詣りの報告

恒例の秋の観音詣り、今年は十一月八日（水）からの一泊で静岡県の古刹を巡拝しました。

成願寺に朝七時集合。観音堂にてご祈禱後出発。バスは新東名を一路静岡方面へ向かいます。あいにくの天候で、右手の富士山には雲がかかっただけでお目にかかれず。それでも茶畑と駿河湾を眺めながらバスの旅を楽しみます。途中休憩を挟んで十一時半過ぎに臨済宗方広寺に到着。大型バスの駐車場から眼下に開けた広大な境内は他に例を見ない佇まいで、深奥山の山号にふさわしい景色です。日頃から宿泊の坐禅研修にも力を入れているそうで、客殿の食堂にご案内いただき、まずはお昼ご飯。同じ禅宗なので、



真剣な眼差しで写経に取り組む一行



半僧坊で説明を受ける一行



竜ヶ岩洞を見学

食事の前のお唱え「五観の偈」が貼りだしてありますが、少し訓み下し方が異なっていてみな興味津々。名物の精進うな重は、豆腐と山芋にレンコンでうなぎの小骨、海苔で皮を再現。感心するほどよく工夫されていて、とてもおいしくいただきました。

場所を移すと「延命十句観音経」の写経と聖観音様の写仏修行。案内のお坊さんより、写経の功德等についての丁寧なご説明と今年の大河ドラマ「おんな城主直虎」のロケ地となり、僧侶役で出演して後ろ姿が映ったなど楽しいお話もいただきました。写経は住所、氏名、願い事などを書き入れてお納めするとご祈禱して下さるといふことで、ありがたい気持ちで奉納させていただきました。

その後、山内を拝観。大河ドラマにちなんだ特別展を拝見したのち、本堂にて国の重要文化財に指定

されているという釈迦三尊様にご挨拶の読経。金泥が施され、宝冠をつけた珍しいお姿のお釈迦様が輝いていて、きれいな一言でした。さらに鎮守様の半僧坊大権現様のご真殿へ。開祖無文元選禪師が中国より帰国の折、船が台風で遭難された際に海上に現れ危難を救ったのが半僧坊様で、この伝承から特に海上安全のご利益をいただきに全国から信仰を集めているそうです。最後に高床式の大きな本堂の前で記念写真を撮り、方広寺を後にしました。

次に神秘の大鍾乳洞「竜ヶ岩洞」へ。フローストーン、石筍、ストローなど様々な形の鍾乳石に「黄金の富士」や「シャンデリアの間」などうまい具合に名前がつけてあり、二十分強の行程を楽しませてくれます。なかでも突如として現れる「黄金の大滝」には目を奪われました。バスはかんざんじ温泉へ。

あくる日は井伊家の菩提寺龍潭寺へ。朝一番、真つ先に向かうも今をときめく直虎ゆかりのお寺だけあって大賑わい。鶯張りの回廊を進むと左甚五郎作の龍の彫刻が目を引きまします。本堂脇のお部屋を特別にお借りしてお経を上げさせていただきました。その後、正面に進み出て、知恵と福德を授けて下さるご本尊の秘仏・虚空蔵菩薩様にお

焼香させていただきました。回廊を進み本堂の裏手に回ると、小堀遠州作の庭園を拝観。心の字を表す池、仁王石、守護石などが配置された代表的な寺院庭園として国の名勝に指定されています。続いて「秋の寺宝特別展示」をご説明を受けながら見学し、龍潭寺を後にしました。

バスは東名高速を東へ、掛川の少林寺へ向かいます。第一祖黙子素淵禪師の頃より多くの名僧を排出した道場で知られ、現在も開山以来二百八十余年という禅堂で坐禅会が開催されています。成願寺にも坐禅指導においていただいている、東堂の井上貫道老師にお話を賜りました。茶菓のおもてなしをいただき、参道にて記念撮影。次は焼津の魚センターへ。各自昼食を済ませると、すぐ近くの千手大観音様へ参拝し、成願寺への帰路へつきました。了



小堀遠州作の庭園で小休止



井上貫道老師のお話



千手大観音様を参拝

台湾の剣道場より坐禅修行に來山

前号に続き、当山にて坐禅修行とお粥の昼食を体験された「台湾体育会剣道委員会日本参訪団」よりの感想文を紹介します。

劉晏彤

私たちは成願寺に行き、禅寺の生活を体験しました。私は坐禅を体験するのは初めてです。坐禅中に寝ないことは簡単ですが、難しいところは心の中の雑念を一つも無くすることです。つまり色即是空ということ、これは「無」という境地かと思います。

私たちは何かをやるとき、いつでも専念できたら最後にきつと得るものがいっぱいあると思います。坐禅を体験したからこそ、私は「無」ということの大切さを理解しました。

自分の読書方式も反省しました。自分が専念していると思っていた専念は、本当の専念ではなくて、周りのことに誘われて、効率が低くなっていました。それなのに、試験に合格しなかったとき、いろいろな言い訳を探して、根本的な原因を忘れていました。これは今回の坐禅を体験して反省し、心から決めた徹底的に変わるどころです。

許雲晴

日本に在留した一週間、私は本当に楽しかったです。特に楽しかったのは、剣道と坐禅をしたことです。お寺を見学することを通して、日本の僧堂の生活を体験し、坐禅のルールも勉強しました。

坐禅をしたとき、静かな空間で何も考えずにいたら、心もだんだん静かになってきました。坐禅が終わってから、私たちは僧堂の食事も体験しました。これらの体験から見ると、日本の文化と台湾の文化は本当に違います。

張芸瑄

今回成願寺で坐禅を体験でき、本当にありがたかったです。私にとって初めての坐禅体験でした。

静かな環境で、眠らないと同時に、心に雑念が一つもないように、視線をまっすぐにしていくということとは非常に難しかったです。頭の中に何も考えない状態を初めて体験しました。坐禅の時間はわずかに十分ほどでしたが、心が体験したことのない静かさでした。その十分の間に、たくさん誘いと邪魔をするものがありました。私の心の静かさは変わらなかったです。心が静かなので、目の前に何も無い

という感じがしました。

坐禅を体験してから私は、ずっと坐禅をしている心境で生きたいと思うようになりました。そのような心境は、唐の時代の詩人・劉禹錫の作品「无丝竹之乱耳 无案牍之劳形」（私を邪魔する音もないし、体を疲れさせる仕事もない）という言葉を思い出させました。心の悩みと肩に背負った責任を一時的に忘れられました。今回の坐禅で、私は初めて本当の意味での「休み」を体験しました。またチャンスがあれば、坐禅を体験したいです。

辛佳零

お寺に来る前は、自分がこの体験を全うできるか心配でした。坐禅の最初のころは、その状況になかなか慣れなかったです。周りから笑う声が聞こえてきて、私の心は静かになりたくても、無理でした。しばらくして木の板を打つ音が響くと、みんなが本当に静かになってきて、私もだんだん慣れて、ちよつとリラックスできました。有意義な体験でした。

坐禅のあとは、昼ご飯の時間でした。仏教には食事は命のため、おいしいかどうかは関係ないという言葉があります。成願寺で勉強したことは、私にとつ

て忘れられない思い出になりました。特にお昼の食事…、午後に剣道をしたとき、私は倒れるほどお腹がすいていました。

陳羽誌

成願寺に着き、まず見えたのはお寺の木造建築で本堂と洗心閣でした。お寺に入ると、すぐ気持ちがよくまりました。坐禅の前に、お寺の先生がみんなに説明してくれました。そして、みんな並んで坐蒲を取り本堂に入りました。鐘が鳴ると、坐禅が始まりました。最初は心が全然静かにならなくて、寝てしまったり坐る姿勢が正しくなくて、先生に叩かれるのではないかと心配していました。汗をかくほど緊張しました。しばらくの間、誰かの笑い声と咳をする声が聞こえてきて、私の邪魔をしました。自分は笑わないように努力しました。そうしているうちに、心もだんだん静かになってきました。

坐禅をしてからは、食事の時間でした。食事の前に、食べ物を大切にするとか、先生から説明を受けました。食事の後、私たちは方丈様とお寺の皆さんと一緒に記念写真を撮りました。

お寺の先生が言った通り、雑念から離れることが

重要だと思いますが、本当にできるかは難しいです。今回の坐禅体験から、私と家内がこれからの人生で、だんだん雑念を捨てられるように頑張ります。

張中陽

台湾にいる時、日本仏教の坐禅を聞いたことがありました。それからずっと体験したいと思っていました。坐禅は心の雑念を一時的に忘れ、坐る姿勢も大切です。お寺で坐禅することに、敬意の気持ちを持って臨みました。お寺で食べた昼ご飯は、お坊さんから説明を受け、忘れられない印象を残しました。

陳茂誼

今回の坐禅会で、私は心が静かになるということの大切さを体験しました。こういうことは剣道と勉強にも適用できると思います。チャンスがあれば、また日本に行きたいです。

陳芋穎

今回の坐禅会で、私はずっと咳が止まりませんでした。周りの人が私の咳を聞くと笑い、私も笑ってしまいそうでした。今回の坐禅を体験して、私は心

が静かになるということを勉強しました。

劉裕銘

静かな成願寺は賑やかな町に位置しています。私たちは期待や好奇心を持って、お寺に入りました。お寺に入るとすぐに心が静かになってきて、リラックスできました。でも荘厳な仏教建築を見ると、今度は敬畏の気持ちを持ちました。坐禅の前にお寺の先生が私たちに説明をしました。本格的な坐禅はこのような姿勢で四十分坐る。修行中は一日に三回も坐ると聞いて、本当に感心しました。

坐禅が始まりしばらくすると誰かが叩かれた音がして、びっくりしました。なぜ叩かれたのか分からなかったのですが、たぶん仏様が叩かれた人に向けて一番いい贈り物だと思いました。それから私は、自分の息を吐く音を聞き、心を静かにしました。

坐禅をしてから、昼ご飯の時間でした。質素という言葉が非常に適当だと思います。食事はお腹をいっぱいにするためではなくて、人間の命を続けさせるためにいただくのです。

坐禅の時の心境は一番貴重な経験でした。私は台湾に戻りまして、これからずっと坐禅していた心境

で生きていきたいです。

蔡嘉倫

七月十九日の朝、私たちは成願寺に着きました。敬畏の気持ちを持ちながらお寺に入りました。

私は初めて坐禅を体験しました。坐禅はただ静かに坐っていることだけかと思っていました。剣道と禅の間は関係があると思います。これは長い時間をかけて、私がやっと理解したことです。

お寺の先生が私たちにいろいろ紹介してくれました。心を静かに坐禅することはそんなに簡単ではないことと思えました。まず、心の欲を捨て、雑念も一時的に忘れます。十分ほどの坐禅体験でしたが、本当に辛いと思えました。残念ながらその短い時間が、反省する時間なのか、リラックスする時間なのか分からず、坐禅の意味を理解することもできませんでした。

でも、剣道では心が静かになることが大切ですから、これは坐禅と同じだと思えます。このようなことを理解できれば、これからの剣道と人生の旅ももっと順調になると思います。今回の経験から、私はもっと周りとの世界に感謝していきたいです。

山内短信

◎中野たから幼稚園園長に成願寺住職が就任

九月四日(月)、成願寺付属中野たから幼稚園ホー



園児。導師
をする園児。導師
をを務める副住職
は主事を務める副住職
お唱えを務める副住職
は主事を務める副住職
りました。

ルに園児一同が集まり、本尊様が
見守るなか始業式が行なわれまし
た。園児による献花、お経のあと、
九月より園長に就任した成願寺住
職より、新学期に向けたお話があ
りました。

◎中野区役所職員が「新任研修」にて来山

去る十月十七日(火)から三日間にわたり、述べ

百三十名ほどの中野区役所新人職員が、区の歴史や
現場を知るための研修の一環として来山。昭和二十
年の空襲について、旧防空壕を見学していただいた
あと当時の様子を紹介。職員のみなさんは平和行政



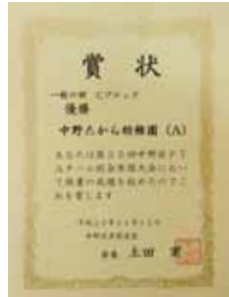
本堂で住職の話を聞く新
人職員一行

の重要性を学びました。「戦争
の様子など、昔の中野について
のお話をお聞きし印象的でした」。
「写真や絵を拝見し、中野の変遷
について深く考える機会となりま
した」等の感想がありました。

成願寺付属中野たから幼稚園 父母会卓球部 ブロック優勝!



母のみなさん、卓球部はいつでも部員募集中です。



去る十一月十二日

(日)、中野区卓球連盟
主催「第三回総合P
T A」の大会が中野体
育館で開催されまし
た。区内の幼、小、中

のPTA五十一校(園)が参加。
中野たから幼稚園Aチームは見
事ブロック優勝を果たし、その
後行なわれた決勝トーナメント
でベスト8の成績を収めました。

卓球部は月々金の午前と土曜
の午後、主に旧幼稚園で練習
を行なっています。現在部員は
十七名で、元卓球部はもちろん、

初心者で入部する父母も多数在
籍しています。コーチの指導は
時に厳しく、でも和気あいあい
とした雰囲気。たから幼稚園父